

土居高の存続を目指す会

趣 意 書

土居高校は存続の危機に直面しました。

1万7千人が巣立った母校は、地元四国中央市の各界を担う人材を輩出し、特に高卒人材を産業界を中心に最も多く供給し、その定着も果たして参りました。

ところが、少子化の中で、圧倒的に児童生徒が減少する中、県教委は県立高校再編整備基準を示して、土居高が募集停止を検討される該当1年目になった事を、去る5月10日に明らかにしました。その基準は、3学級以上の学校で、入学生80名以下が3年続けば募集停止の対象となる、というものであります。土居高の令和6年度の入学者は68名になってしまったのです。

この事が愛媛新聞で記事となり、多くの関係者は驚くと共に、本会を結成して、ふるさと四国中央市に必要な土居高の存続を目指して、活動の輪を拡大するものです。

令和6年7月

呼びかけ人

加藤敏史（元町教育長） 谷晶子（四国中央市文化協会会長） 矢野徹志（砥部町文化協会会長・画家作陶士）

鈴木良明（共同瓦斯会長） 鈴木克年（鈴木産業前社長） 鈴木暁武（元プロ野球スカウト）

荻田佳子（コーラスグループ代表） 深川京子（ボランティアキャスター） 山内恵子（画家）

森高康行（前同窓会長） 安藤修一（元土居高PTA会長）